

A 大学看護学生の資格・免許取得モデル選択への支援に関する研究

○柴田 明日香（加古川中央市民病院），新井 理紗（社会医療法人三栄会 ツカザキ病院）
田中 莉奈（愛仁会 明石医療センター），西村 夏代（関西福祉大学）

I. はじめに

近年、看護系大学は増加しているが、看護師に加え保健師、助産師、養護教諭(1種免許状)の資格・免許の取得モデル(以下、取得モデルとする)が選択できる看護系大学は減少している。A大学看護学部ではこれら4つの取得モデルが選択でき、大学からのサポートが提供されているが、取得モデル選択時に必要な情報の不足や、選択後の学業継続の困難性が推測される。先行研究では学習継続に関する他者からの情緒的・情動的サポートの必要性に関する研究は散見されたが、取得モデル選択時に必要なサポート内容を調査した報告は見当たらなかった。そこで本研究は、学生が取得モデル選択時に必要なサポートについてどのように認識しているのか、実態調査を通して明らかにすることを目的とした。

II. 研究方法

A 大学看護学部にて在学中の看護学部生 1～4 年次生を対象とし、無記名自記式質問紙調査票を用いて実施した。調査項目は対象者の学年、取得モデル選択の理由、進路選択に影響するサポート、職種選択に影響する情報源など全 13 問で構成した。得られたデータは単純集計及び記述統計を行い、分析には Excel を使用した。調査期間は 2023 年 8 月～2024 年 9 月 30 日までとし、A 大学研究倫理審査会の承認を得て実施した(関福大発第 5-0801 号)。

III. 結果

看護学部生 1～4 年次生 365 名のうち 131 名から回答が得られた(回収率 35.8%)。取得モデルを決めた時期は全学年共通で「入学前」が最も多く、入学後では 1 年次が最も多い。相談先は全学年共通で「アドバイザー」と「同じ大学の友人」が多い項目であった。

実習での体験は、全学年共通で 90%以上が取得モデル選択に役に立つと回答した。中でも 1・2 年次生の基礎看護学実習での体験が 3 年次の取得モデル選択に役立つと考えていた。

取得モデル選択に必要な情動的サポートは、全学年共通で 90%以上が影響すると回答し、教員からの情緒的サポートの必要性に関しても全学年の 90%以上が必要であると回答した。

IV. 考察

取得モデル選択の時期では入学前が多いことから、入学前からの大学説明会やオープンキャンパスで取得モデル選択に関する説明をする、といった支援のニーズが明らかとなった。在学中では選択時期として最も多い 1 年次での情報提供が重要であるといえる。

相談先では A 大学の強みであるアドバイザー制度が役立っており、今後もアドバイザー制度の継続や学生同士で情報や互いの意見を交換する機会が必要であると考えられる。

情動的サポートでは選抜試験の内容や選抜試験の準備の為の情報が職種選択に影響すると言え、既存の学年オリエンテーションやアドバイザーによる面談時に、選抜試験に関する具体的な情報提供が必要だと考える。

情緒的サポートでは励ましや慰め、不安の傾聴などが取得モデル選択や学習継続に必要であるという結果であり、教員との関わりの機会を継続して設け、よりサポートが受けやすい環境を整備していくことが必要であると考えられる。